“復興の人間科学2026”

福島原発事故15年の経験から学ぶ

ー当時小中学生だった若者達との対話からー

Lessons from 15 Years of Experience after the Fukushima Nuclear Accident
: From the Dialogue between Young Victims and Researchers.

https://wima.jp/

対面・オンライン参加
共にネット申し込み制

［ご挨拶］ 10:00　開会の挨拶 ： 大会実行委員長・平田修三
（仙台青葉学院短期大学准教授、WIMA招聘研究員）

［第1部］ 10:10　当時小学生だった若者達との対話から Vol.5
1.企画趣旨・諸注意：平田修三（15分）
2.早稲田大学人間科学部学生による
事前インタビュー結果と考察（各10分）
3.被災当事者の若者3名による発表（各20分）
4.WIMA研究者・教員3名によるコメント（各10分）
福島勲（早稲田大学教授），吉田耕平（早稲田大学講師），
中村光江（WIMA招聘研究員）
※1組目：10:25～，2組目：11:05～，3組目：11:45～

［Lunch Time］ 12:30～13:30　＜ポスター・セッション＞

［第2部］ 13:30　パネルディスカッション①：司会：平田修三（80分）
1.原発事故15年の経験の意味・意義を考える
2.若者達による日本社会・国際社会への提言

［第3部］ 15:00『若者の原発事故体験；人間科学で読み解く』
（地平社、2027年3月発行予定）論考の紹介：司会：増田和高（140分）
1. 自身の傷つきを、これからの子どもたちのために
（萩原裕子：心と法のつながり相談室）
2.原発避難と「被害否定」――「復興」による排除を超えて
（明戸隆浩：大阪公立大学准教授）
3. 声を取り戻す――選択権の不在から対話の主体へ
（村本邦子：立命館大学教授）
4.分断を超えた対話のためには何が必要か
（佐治伸郎：早稲田大学准教授）
5. こころに傷を負った人へのｲﾝﾀﾋﾞｭｰ調査とはいかにあるべきか
（多賀努：東京都健康長寿医療センター研究所研究員）
6. 地球の危機・人間社会の危機に微力でも立ち向かいたい
（辻内琢也：早稲田大学教授）

［第4部］ 17:30　本プロジェクトへの講評：司会：増田和高（20分）
講評1（研究者の立場から）：浅川達人（早稲田大学教授）
講評2（当事者の立場から）：森松明希子（東日本大震災避難者の会 Thanks&Dream代表）

［ご挨拶］ 17:55　閉会の挨拶：大会長・辻内琢也
（早稲田大学災害復興医療人類学研究所所長）

2026年11月29日（日）：10時～18時

早稲田大学　早稲田キャンパス／オンライン　ハイブリッド開催　＜無料＞

◆主催 ： 早稲田大学総合研究機構，早稲田大学災害復興医療人類学研究所（WIMA）
科研費（B）「原子力災害被災者の全人的復興モデル構築に向けたコミュニティベース参加型研究」
大会長：辻内琢也，実行委員長：平田修三
◆共催 ： MITATE Lab. Post-Fukushima Studies（フランス国立科学研究センター見立てラボ）
◆問合せ先（WIMA研究所事務局：辻内研究室内）：〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15
（ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ事務局）E-mail： shinsai-wima@list.waseda.jp

早稲田大学災害復興医療人類学研究所
Waseda Institute of Medical Anthropology on Disaster Reconstruction

https://wima.jp/

フランス国立科学研究センター見立てラボ
MITATE Lab. Post-Fukushima Studies

https://mitatelab.cnrs.fr/

■WIMA研究所メンバー■

[名誉顧問]（故)菊地靖（早稲田大学名誉教授，開発人類学）
根ヶ山光一（早稲田大学名誉教授，発達行動学）

[所長]
辻内琢也（早稲田大学人間科学学術院教授，医師，医療人類学・災害精神医学）

[研究所員]（*運営委員）
扇原淳*（人間科学学術院教授，社会医学）
小島隆矢*（人間科学学術院教授，建築環境心理学）
桂川泰典（人間科学学術院准教授，臨床心理学）
熊野宏昭（人間科学学術院教授，医師，行動医学）
浅川達人（人間科学学術院教授，都市社会学）
福島勲（人間科学学術院教授，文化資源学）
古山周太郎（人間科学学術院准教授，社会福祉学）
佐治伸郎（人間科学学術院准教授，言語学，認知科学）
吉田耕平（社会科学総合学術院講師，社会学）

[招聘研究員]
リチャードF.モリーカ（ハーバード大学教授，医師，難民トラウマ研究所・HPRT所長）
多賀努（東京都健康長寿医療センター研究所研究員，社会学・老年学）
増田和高（武庫川女子大学文学部准教授，社会福祉士，地域福祉学）
岩垣穂大（亜細亜大学社会学部専任講師，社会福祉士，精神保健福祉士，社会医学）
平田修三（仙台青葉学院短期大学准教授，発達心理学・児童福祉）
金智慧（東京大学多様性包摂共創センター特任研究員，臨床心理士，医療人類学）
関谷雄一（東京大学大学院総合文化研究科教授，文化人類学・開発人類学）
土田マリサ（慶応義塾大学精神神経科，医師）
北村浩（政治経済研究所主任研究員，政治学）
桂川秀嗣（東邦大学理学部名誉教授，原子核物理学）
猪股正（震災支援ネットワーク埼玉代表，弁護士）
萩原裕子（こころと法のつながり相談室，臨床心理士）
佐藤純俊（全国福島県人友の会代表，社会福祉主事）
明戸隆浩（大阪公立大学准教授，社会学・多文化社会論）
堀川直子（元福島大学客員研究員，社会人類学）
森松明希子（東日本大震災避難者の会Thanks＆Dream代表）
鈴木勝己（早稲田大学人間科学部教育コーチ，文化人類学）
中村光江（図書印刷株式会社，文化人類学・民俗学）
戸田典樹（東京通信大学教授，社会福祉学）
渡部朋宏（会津美里町役場，公共政策学）
村本邦子（立命館大学人間科学研究科教授，教育心理学）

[リサーチアシスタント(RA)]
佐藤星（東京大学大学院教育学研究科,臨床心理学コース博士課程）

『若者の原発事故体験：人間科学で読み解く』
（地平社、2027年3月発行予定）
＜第1巻：傷つく＞

⑴ ライフストーリーを紡ぐこと、読み解くこと（平田修三）
⑵ 対話的想起の人間科学―原発事故、避難、そして語ること（関谷雄一）
⑶ 地球の危機・人間社会の危機に微力でも立ち向かいたい（辻内琢也）
⑷ 「私の喪失」と新たな「私」の再生（熊野宏昭）
⑸ 自身の傷つきを、これからの子どもたちのために（萩原裕子）
⑹ 社会関係の激変と子どもの苦難（吉田耕平）
⑺ 米国における人種差別・健康格差研究から原発事故による「差別」を考える（萩原奈緒）
⑻ 現在進行形の原発事故被害、断絶した対話回路をつなぎ直す（村本邦子）
⑼ 原発避難と「被害否定」―「復興」による排除を超えて（明戸隆浩）
⑽ 遠回りしてでも自分らしく生きられる、みんなでそういう社会を創りたい（猪股正）
⑾ 安全安心神話が生み出した風評加害言説（辻内琢也）
⑿ 声を取り戻す―選択権の不在から対話の主体へ（村本邦子）
⒀ こころに傷を負った人へのインタビュー調査とはいかにあるべきか（多賀努）
⒁ 分断を超えた対話のためには何が必要か（佐治伸郎）

■WIMA関連書籍のご紹介■

◆辻内琢也「苦難の先に見出す“希望”―原発事故型PTSDといかに向きあうか．聖教新聞「復興と文化」取材班（編）**『復興と文化：常態化する災後社会のなかで』** 第三文明社，2024
◆辻内琢也・他著**『【意見書】フクシマ型PTSD“今やらねばならぬこと”―原発事故被害者への“構造的暴力による社会的虐待”』** 三和書籍，2023
・・・10年間にわたる調査が明かす、原発事故被害者の被害実態の全体像
◆辻内琢也/トム・ギル（編著）**『福島原発事故被災者　苦難と希望の人類学―分断と対立を乗り越えるために』** 明石書店，2022
◆Takuya TSUJIUCHI(Ed.)『Human Science of Disaster Reconstruction：An interdisciplinary approach to holistic health following the Great East Japan Earthquake and Fukushima nuclear disaster』. Interbooks, 2019
◆辻内琢也/増田和高（編著）**『フクシマの医療人類学―原発事故・支援のフィールドワーク』** 遠見書房，2019
◆関谷雄一/高倉浩樹（編）**『震災復興の公共人類学』** 東京大学出版会，2019
◆戸田典樹（編著）**『福島原発事故　取り残される避難者―直面する生活問題の現状とこれからの支援課題―』** 明石書店，2018
◆戸田典樹（編著）**『福島原発事故　漂流する自主避難者たち：実態調査からみた課題と社会的支援のあり方』** 明石書店，2016
◆鎌田薫（監修）早稲田大学震災復興研究論集編集委員会（編）**『震災後に考える:東日本大震災と向き合う92の分析と提言』** 早稲田大学出版部，2015
◆辻内琢也（編著）**『ガジュマル的支援のすすめ―一人ひとりのこころに寄り添う』** 早稲田大学出版部，2013